

外ナカリキ、シカモ應募セシ人々ハ凡テ職工ニテ、地位アル人ハ一人モナカリシハ誠ニ嘆カハシキコト、イフベシ、思フニ我國ニ於テハ國民全體ガ玩具トイフモノニ對シテ惡癖ヲ有セリ、即、ツマラヌモノニ對シテ一口ニ玩具ノ如シト云フコトコレナリ、故ニ自分ハ玩具ト云フ言葉ヲ改メタシト思フ位ナリ、[フレーベル]ハ玩具トイフ名ノ代リニ恩物ト云ヘルハ大イニ賛成スル處ナリ。

英國ノ玩具界ノ状態ハ如何ト云フニ、コノ國ハ元來玩具ノ製造國トイフヨリハ寧ロ玩具ヲ消費スルコトニ於テ世界第一ナリ、昨年英國へ我國ヨリ輸出セシノミニテモ130萬圓ナリキ、然シ現今ハ戰爭ノタメニ軍人ノ遺族ニシテ玩具業ニ従事セルモノ多ク又[ベルギー]ノ避難民ニ簡易玩具工業ニ従事セシメ今日ハ慈善事業トシテ玩具ノ製造業盛大ナリ。

米國ニ於テモ、カナリ盛ニシテ一工場ニハ千人以上ノ職工ヲ使役セル工場多シト云フ。

斯クノ如ク玩具ハ各國ニテハ重要ナル物産トシテ盛ニ研究シツ、アリ。戰時ノタメ我國ニテハ多數ノ玩具輸出高ヲ占ムレドモ、戰爭終ラバ或ハ764萬圓ノ玩具輸出モ甚シク減退スルノ杞憂ヲ抱クモノアリ、サレバ此ノ現況ヲ維持シ益盛大ニナラシメンニハ我玩具業者ノ一層ノ奮勵力ヲ要スルナリ、今假リニ獨逸ノ6000萬圓ノ玩具輸出ヲ日本ト米國ニテヒキワケ、幸ニ其ノ一半即3000萬圓ヲ日本ノ有トセンニハ我國ノ現今ノ800萬圓ヲシテ3000萬圓ニ増加セントタメ、今一ケ年ニ200萬圓宛増ストシテモ今ヨリ十

一ケ年間熱心ニ働カザルベカラズ、而シテ此ノ間ノ研究ハ從來ノ職工ノミニ委シテハ到底成功スルコト能ハズ、此ノ際ニ理科ニ考ヘノアル諸君ニハ大イニ玩具ノ研究ニ、ツトメラレンコトヲ切望スル次第ナリ。

最後ニ一言セン、彼ノ創作力ハ日本人ノ最モ幼稚ナル處ナリ。然ルニ玩具ノ研究ニヨリテ此ノ創作力モ十分ニ發達セシムルコトヲ得ベケレバ玩具ハ國運増進ノ上ニモ、將タ心力養成ノ上ニモ最モ必要ナルモノナルベシ。

我が國ニ於ケル動物學ノ現況 (總會ニ於テ)

理科二部四年 松本うら

物質的文明、精神的文明ノ何レニ於テモ、其ノ文化ノ中心トナツテ居ツタ歐洲ノ天地ガ戰雲ニトザ、レテ居ル今日、我が國ニ於ケル諸般ノ文化ハ如何ナル状態ニアルカ、トクニ人生ニ至大ノ關係ヲ有スル動物學ハ、如何ニ進歩シ、如何ニ發達シツ、アルカト云フ事ニ就キ、淺學ナル私ニハ到底十分ナル事ヲ申シ上グ兼ネマスガ、強イテ此ノ23年間ニ於ケル本邦動物學者ノ研究ノ跡ヲ辿ツテ見タイト思フノデアリマス。

御存知ノ通り我が大日本帝國ハ北ハ極寒ノ境カラ南ハ酷熱ノ地ニ跨ツテ、其ノ海岸ノ曲折ハ非常ニ多ク、實ニ七千有餘里ノ海岸線ヲ有シ、其ノ沿海ニ産スル動植物ノ豐富ナルコトハ全地球上、稀ニ見ル所ト唱ヘラレテ居ル故ニ、是等海產物收穫ノ事業即チ海産業ハ昔カラ可ナリ盛ンデアリ

マシタ、コノ數多ノ海産種ニ更ニ淡水ノ産種ヲ合スレバ、單ニ魚類、貝類等ニ就キテ見マシテモ、其ノ品種ハ驚クベキ數ニ達シテ居リマス、夫レニモカ、ハラズ、現今學者ガ新種屬トシテ陸續ト發表サル、モノハ決シテ少ナクアリマセン、即チ動物學雜誌ニ於テ毎月少ナクモ五六種ハ新種トシテ公ニセラレテ居リマス。斯クノ如ク我ガ國ニ於テ新種屬ノ陸續ト發見セラレ、ノハ、動物學ノ我ガ國ニ研究ナル事ノ新シキ所以デ動物數百ノ科目中本邦ニハ調査ニ着手サレザルモノガ、マダマダ澤山アリマス。歐米各國デハ、スデニ數百年以前カラ調査セラレタル結果トシテ、動物ノ新種屬ハ現今ノ我ガ國ニ於ケル如ク澤山ニ發見セラレ、事ハナイヤウデアリマス。元來此ノ種屬ヲ調査スルコトハ動物學ノ唯一ノ目的デアリマセン、終局ノ目的ハ生物ノ起原ヲ窺明シ、吾人人類ノ今日ニ至ツタ徑路ヲ探究シ又其ノ智識ヲ應用シテ人間ノ幸福ヲ増サウトスルニアリマス、種屬ノ調査ハコノ終局ノ目的ニ達スル迄ノ手段デアリマス。

現時ノ歐米各國デハ、モハヤ種屬調査ノ時ハ過ギ去ツテ、更ラニ進ンデ遺傳、生態ノ方面ノ研究ニ没頭シテ居リマス、コレニヨリテ考ヘテモ、我ガ國ノ動物學ハ幼稚デアルトイハネバナリマセヌ。併シ我ガ國ニ於テモ現時ハ種屬ノ調査以外、諸方面ニ研究ノ手が廣メラレテ居リマス、今一二ノ例ヲ擧ゲテ申シマスト、水産動物ノ魚類ニ於ケル諸種ノ寄生蟲ニ就テ、藤田理學士ガ曾テ粘液胞子蟲類ノ病害ハ不感染デアルト憶斷セラレタ鱈類モ本邦産コトニ北海道、各地

ニ分布スル若干ノ種類ハ殆ンド免疫セラル、モノ、ナイコトヲ公ニセラレマシタ。石井理學士ハ鰻ノ皮膚ニ寄生スル粘液胞子蟲ヲ發見シ、又小林氏ノ鯰ニ寄生スル吸蟲類ノ新研究ナド、數フレバ可ナリ澤山アリマスガ、何レモ唯動物學上ノ貢獻タルノミナラズ、實用的方面カラ考ヘテモ、吾人ノ食用トシテ必要ナル魚族ノ蕃殖ヲ圖ル爲ニ斯カル新智識ハ吾人ニ利益ヲ與フルコト決シテ少ナクナイト思ヒマス。

其ノ他一般ノ寄生動物ニ就イテモ研究ノ歩ハ進メラレ、彼ノ東洋諸國ニ固有ナル一種ノ肺病ノ病原體タル肺[ヂストマ]ニ就イテ、其ノ生活史ハ全ク不明ナリシガ、臺灣ニアル中川醫學士ヲ始メ其ノ他諸氏ノ熱心ナル研究ニ依テ其ノ大體ヲ知り得タノデアリマス、即チ肺[ヂストマ]ノ幼蟲ガ第一中間宿主タルくろかはにな又ハ、いぼかはになノ體內ニ宿リ、是ヲ辭シテ第二中間宿主タル赤蟹又ハ澤蟹ノ體內ニ侵入シ、其ノ鰓ニ移リテ人體ニ入り、其ノ食物ニ依テ口ヨリ人ルコトハ動物試験ニ依テ證明セラレマシタガ、食管カラ肺ニ到達スル經路ハ暫ラク不明デアリマシタガコレモ犬及ビ猫ニ施シタル實驗ニヨルト、幼蟲ガ腸管壁ヲ穿チテ一旦腸腔内ニ出デ、是カラ横隔膜ヲ貫通シテ胸腔内ニ入り、肺臟ニ侵入シテ發育スルモノナルコト組織學的ニ證明セラレマシタ。

次ニ一種ノ地方病トシテ、秋田、新潟、山梨等ニ時々流行スル恙蟲病ノ病原ガ久シク不明ナリシガ、昨年五月以來、長與醫學博士等ノ研究ニ依リ「トロンビジウム及ビ赤蟲ニ就テ」

トイフ論文ニ數回ニワタツテ動物學雜誌ニモ發表セラレ漸ク其ノ病原ガ解釋セラル、ヤウニナリマシタ。

次ニ遺傳ニ關シテハ先年外山理學博士ノ蠶ノ遺傳研究ノ發表アツテ以來、多クノ學士モ此ノ方面ニ觀察眼ヲ向ケ、又遺傳ニ關スル著書モ追々出版セラレ、永井醫學博士ノ生命論、山内理學博士ノ遺傳論及ビ細胞ト遺傳等ハ其ノ主ナルモノデアリマシテ、動物學者以外ノ讀者モ遺傳ニ注目スルヤウニナリマシタ。

最後ニ最モ興味アル動物心理學ニ就テハ永澤氏ノ外國ニ於テ行ツタ實驗ガアリマス、其ノ成績ノ概要ヲ述ベマスト、ボルネオ産ノ猩々ト[チンパンジー]ヲ用ヒ、相當ニ教育シテ物ヲ言ハセヤウトシマシタ、先ヅ言葉ヲ教フル手始メトシテ“Papa”トイフ發音ヲサシテ見タガ、猩々ハコレヲ發音スルニ約六ヶ月カ、リ、遂ニハコレヲ覺エコンデ、此ノ語ハ主人ヲ指スノデアアルコトモ了解シ“Papa,,”ハドコニ居ルカト問ヘバ主人ヲ指シ、或ハ主人ノ肩ヲ叩ク様ニナツタトイヒマス。[チンパンジー]ハ猩々ニ比較スルト成績ハヨロシクナイトイフ事ハ、五年間教育シテ辛フジテ“Mama,,”ト發音サセル事ハ出來タガソレモ甚ダ明瞭デハナカツタトノ事デアリマス。尙教育セラレタ是等ノ動物ハ自分ノ棲家ノ鍵ヲ見覺エ十個内他ノ外ノ鍵トコレヲ一所ニ束ニシテモスグ見分ケル様ニナリ、又アルプアベツトノ骨牌ヲ△カラM迄順序通り並ベル事ガ出來タガ、是ハ發音ヨリモムシロ字ノ形デ覺エタモノラシイ、唯色ニ對スル感覺ハ鋭敏デアラシイトイフ事デアリマス。其ノ他針ニ糸ヲ通ストカ

コツプカラ何か飲ムトカ、手ヲ洗フトカイフ事ハ、雜作モナク行フガ、是等ノ動作ハ精神作用ト名ヅクベキ種ノモノデナク、本能的動作ノ少シク形ヲ變ヘタモノニスギマセヌ、又是等ノ動物ニハ全然推理力ガ缺ケテ居リマス。ソコデ結局類人猿ハ教育スレバ人間ノ眞似ヲサセル事ハ出來ルモ其ノ精神作用ニ至リテハ四、五年間位訓練シテモ一歳半位ノ幼兒ニモ劣ルトイフ結論ニ到達シタノデアリマス。

近頃、米國ノスタージ博士ガ御大典ノ御祝品獻納ノタメ日本ニ來ラレテノ話ノ中ニ、東京ノ市役所ノ建物ナドハモウ少シ體裁ヲ整ヘタモノニシテ貫ヒタイ、外國人ノ眼カラ見テハ日本ニ對スル印象ヲ損ジテ間接ニ日本ノ不利益トナル事ヲ恐レルト云ツタト新聞ニアリマシタガ、其レハ市役所ノ建物ニ限ツタ事デナク、公共ノ教育機關トモイフベキモノハ甚ダ不備デアツテ、一等國ノ都會タル東京市トシテハ眞ニ面目ナイコト、信ジマス。

他ノ方面ノ事ハサテオキ、博物學ノ見地カラ一例ヲ舉グレバ、今日文明國ノ博物館ノ數ハ米國ニ約 250、獨逸ニ 150、佛國ニ 300、英國 250 程モアツテ其ノ設立及ビ維持ニ莫大ノ費用ヲ投ジテ居リマス、然ルニ我ガ國ハドウデアアルカト願ミレバ、市立ハ愚カーノ國立博物館モナク、假リニ大學中專門學校ノ標本室ヲ博物館トシテモ、コレスラ僅ニ 10カ 20ニスギスノデアリマス。

國威ハ益々四海ニカマヤキ、文化ハ日ニ月ニ進歩發展シツ、アル今日、我ガ國ニ一ノ學術的博物館ノ無イノハ實ニ遺憾ト思ヒマス。